

第69次印旛地区教育研集会  
(社会科教育・中学校)

基礎・基本を定着させ、主体的に考え、話し合い活動の充実を図り、  
共に学び合う生徒の育成  
～「生きる力」を培い、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けたツール  
としての白地図等の活用～

佐倉市立佐倉東中学校  
綿貫 孝一・大川 彰夫

## 1. 研究主題

基礎・基本を定着させ、主体的に考え、話し合い活動の充実を図り、  
共に学び合う生徒の育成  
～「生きる力」を培い、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けたツール  
としての白地図等の活用～

## 2. 主題設定の理由

### (1) 中学校学習指導要領(平成29年3月告示)に関連して

中学校学習指導要領(平成29年3月告示)では、総則第3の1に「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」について、(1)～(7)に指導に当たっての配慮事項が示されている。本研究主題では、(1)～(7)のすべての項目に配慮しつつ、特に(1)、(3)、(4)、(7)について着目した。(1)には「…特に各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして…知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、…」とあり、身に付けた「知識」や「考え」を基に何かを創造していく過程を重視した学習の充実を図ることを指摘している。(3)では、「…情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。また、各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの…」と教材や教具の適切な活用を促している。(4)には「生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。」と学習の見通しやふり返りの重要性を指摘している。(7)では、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かす…地域の図書館や博物館…の施設の活用を積極的に図り…」と情報収集などの学習活動を充実させることを求めている。

中学校学習指導要領解説—社会編—(平成29年7月告示)では、総説(2)改訂の方針③「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進」について項目ア～カに詳しく示されている。ア～カに、指摘されている点は、ア「…これまで地道に取り組みされ蓄積されてきた実践を否定し、全く異なる指導方法を導入しなければならないと捉える必要はないこと」、イ「…主体的な学び、対話的な学び、深い学びの視点で、授業改善を進める…」、ウ「…学習活動(言語活動、観察・実験、問題解決的な学習など)の質を向上させる…」、エ「…グループなどで対話する場面をどこに設定するか、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかを考え、実現を図っていく…」、オ「深い学びの鍵として見方・考え方を働かせることが重要になる…」、カ「基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合は、その確実な習得を図ることを重視すること」となっている。このように、「主体的・対話的で深い学び」とは、これまでの学習実践を否定するものではなく、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点を持って、学習活動の質を向上させることであり、単元の中でグループなどで対話する場面、生徒が考える場面、教師が教える場面をどのように組み立てるかを考え実現することや、深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要と指摘している。また、基礎的・基本的な知識と技能の確実な習得の重要性も指摘している。

そこで、本研究では「基礎・基本を定着させ、主体的に考え、話し合い活動の充実を図り、

共に学び合う生徒の育成」を研究主題とし、基礎的・基本的な知識や技能の習得を徹底し、授業においてグループなどの話し合い活動を積極的に取り入れ、生徒が主体的に考える場面を計画的に工夫し、学習活動(問題解決学習など)の質の向上を目指している。

また、中学校学習指導要領解説―社会編―(平成29年7月告示)の「地理的分野の目標」で

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

は、「…社会科の目標構成と同様に、柱書として示された目標と、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱に沿った、それぞれ(1)から(3)までの目標(以下に記載)から成り立ち、これら(1)から(3)までの目標を有機的に

- (1) 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事情や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然の相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

関連付けることで、柱書として示された目標が達成されるという構造になっている。」とし、地理的分野の目標を達成するための目標構成が示されている。

さらに平成20年度改訂版『中学校学習指導要領解説―社会編―』の「社会的事象の地理的な見方・考え方…」や「社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり、解決したりする活動を通して…」等を、基本的に今回の改訂においても引き継ぐものとしている。そして、今回の改訂では「…地理的分野の学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、社会的事象の地理的な見方・考え方に根ざした追求の視点とそれを生かして解決すべき課題(問い)を設定する活動が不可欠であることを意味している。」とし、「…地域に見られる課題を把握して、その解決に向けて選択・判断したりすることであり、また、それを用いることによって生徒が獲得する知識の概念化を促し、理解を一層深めたり、課題を主体的に解決しようとする態度などにも作用する…」と指摘している。このように「社会的事象の地理的な見方・考え方」についても、平成20年度改定時の趣旨を踏まえつつ、今回の改訂において、「…改めて柱書において明示した…」と前改訂を基本的に引き継いでいることを説明している。

そこで、本研究では、中学校学習指導要領(平成29年3月告示)及び中学校学習指導要領解説―社会編―(平成29年7月告示)に以上のように示されているこれらの点や平成20年度版『中学校学習指導要領解説―社会編―』の趣旨を踏まえて、研究副題～「生きる力」を培い、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けたツールとしての白地図等の活用～を設定し、主に地理的分野の学習に活用してきた『白地図』(印旛郡市社会科研究部編)について、学習ノート等とともにその活用方法を多角的・多面的に考察してみた。

## (2) 印教研社会科研究部の研究主題に関連して

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習  
～自ら課題をみだし、自らの考えを表現できる児童生徒の育成をめざして～

印教研社会科研究部の研究では、主題設定の理由を「(1)社会科の目標から、(2)社会の状況から、(3)印教研社会科研究部の方向性から」の三点をあげて説明している。この中で、特に「生きる力」については、(3)で「…「生きる力」を培う基礎として、社会的・歴史的な事実をもとに調べ、考え、まとめ、表現する力の向上が求められている。」とし、また、(1)では、社会科の基本的使命として「…社会の形成者としての力を培うことは社会科の基本的な使命…」と指摘し、(2)では社会の急激な変化に対応するために「…児童生徒に基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ、自ら学び、自ら考える力を培うこと…」の必要性を提唱している。また、活動の基本方針の2に「…副読本や白地図等の資料のあり方や有効活用について研究と研修を推進する。」とあり、研究を進める留意点では、(3)社会科研究の方向性の〈これからの方向性〉①において「課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)を取り入れる」と「主体的・対話的で深い学びの実現」の重要性を第一に上げている。本研究でもこれら印教研社会科研究部の研究の趣旨を踏まえて研究主題を設定した。

## (3) 本校生徒の実態から

本校は、佐倉市高岡に位置し、開校33年目を迎える。学区には、佐倉順天堂記念館があり、近隣には佐倉城址を始め、旧掘田邸、国立歴史民俗博物館等、歴史的な教育資源も多い。佐倉市では、佐倉の豊かな恵み(人物、歴史、自然、文化)を学ぶ「佐倉学」があり、市内の小中学校で「好学進取」の気風を育み、次代を切り拓き、各分野で活躍できる人材の育成を目指している。そのため、本校においても社会科学習(特に歴史的分野の学習)に興味・関心を示す生徒が多い。(アンケートA1及びA2を参照)また、「何かを調べたり、調べたことを自分でまとめたり、自分の言葉で感想を書いたり、友達に説明することが得意ですか」というアンケートA4に対し「得意」、「まあまあ得意」と回答した生徒の合計が、40人(72人中:55.6%)と比較的多いのは、小学校での「佐倉学」や社会科学習の成果も表れていると考える。一方、地理的分野の学習は、歴史的分野の学習に比べて苦手意識を持っていることが分かる(アンケートA2を参照)。また、1年生の頃は、「地理は苦手」と公言する生徒も目立ち、地理的分野の学習に苦手意識を持っていることが、本校生徒の課題の一つと考える。そのため、当初から地理的分野の学習で『白地図』や学習ノート等を活用した支援や指導に力を入れている。

社会科学習については、アンケートA1で「社会科を得意としている」、「まあまあ得意である」というように回答した生徒は、38人(72人中:52.8%)で、おおむね半数は社会科学習に意欲を示している。生徒の学習態度は、全体的には良好で社会科以外の教科も熱心に学習に取り組む生徒が多い。一方、少数だが、学習全般を苦手としている生徒は、学習に対して意欲が見られないなど、学習熱心な生徒との差がはっきりとしている。そこで本研究では、基礎・基本を定着させることと、生徒が主体的に考え、話し合う活動の充実を図り、共に学び合う生徒の育成を目指すとともに、これら本校生徒の課題を改善しようと努力している。

さらに資料活用の技能や社会的事象に対する思考力・判断力・表現力等を伸長するため、



#### 4. 研究仮説と研究方法(手立て)

##### [仮説1]

単元のはじめやまとめの学習で、様々な資料を計画的に活用しながら『白地図』学習を取り入れれば、単元を大観させるとともに、基礎的・基本的な知識や技能の習得を徹底できるだろう。

##### [手立て1]

地理的分野の各単元のはじめの学習で、基礎的・基本的な知識の習得に『白地図』や学習ノート等を活用する。各単元の学習で、『白地図』等を参考に単元の特色を理解するため、各自の学習ノートに、各単元の特色に関連する地図(自然を中心としたもの等)を書かせる。続いて人口、文化、産業等の各単元の特色をつかむための学習を『白地図』や学習ノート等を「調べる」学習として行えば、基礎的・基本的な知識や技能の習得を徹底できると考える。

##### [手立て2]

地理的分野の各単元のまとめの学習において、単元のまとめの学習で、教科書にある「ふり返りの学習」等を「単元を大観させる学習」として行い、その際『白地図』や学習ノート等を活用させ、「深める」、「まとめあげる」学習として取り入れれば、基礎的・基本的な知識や技能の習得を徹底できるとともに「単元を大観させる学習」となり、地理的事象を多面的・多角的に関連付けて考察できると考える。

##### [仮説2]

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて『白地図』等を、ツールとして活用すれば様々な学習場面において生徒の思考力・判断力・表現力等を伸長し、「生きる力」を培うことができるだろう。

##### [手立て1]

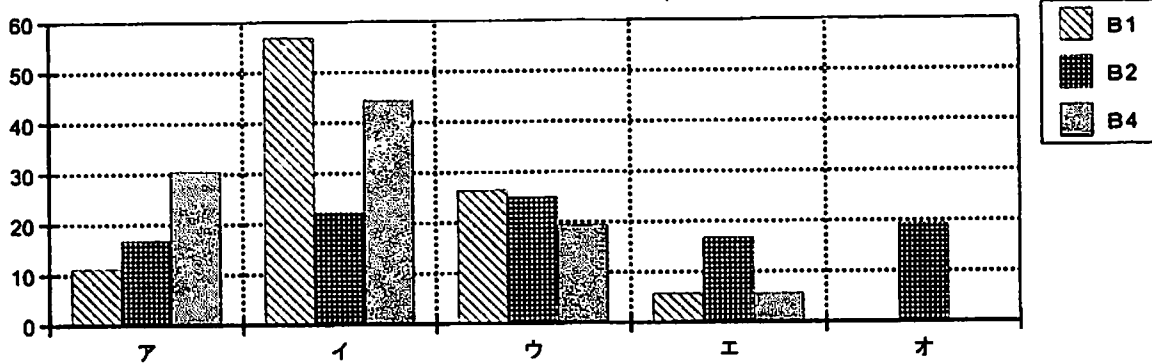
地理的分野の各単元のはじめの学習で、『白地図』や学習ノート等を活用し、学習の「見通し」となる学習課題を明確にする。続いて課題を解決していく手立てを考えさせ、その予想を『白地図』や学習ノート等にかかせることにより、生徒の思考力・判断力・表現力等を伸長させることができると考える。

##### [手立て2]

地理的分野の各単元のまとめの学習で、様々な資料を適切に活用しながら、情報収集に関する技能を高め、『白地図』や学習ノート等を活用して、自分の「予想」に対する考えを具体的に書いたり(思考力)、問題を解決する方法をまわりと話し合いながら見い出せば(判断力)、相手に分かるように表現する(表現力)ことができるようになり、「生きる力」を培い、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けることができると考える。



アンケートB結果(%)



※アンケートB2の主な理由(1年生の初めの頃と比べて得意になった理由)

ア：地理が得意になった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理の方が覚えやすい。</li> <li>・地理が好きだから。</li> <li>・地理の方が楽しいから。</li> <li>・テストなどで、できなかったことができるようになった。</li> <li>・社会科を頑張ろうと思って勉強したのが地理だった。</li> <li>・1年の頃と比べて地理に興味をわいたから。</li> <li>・教科書や地図帳などから、いろいろなことをノートなどにまとめることが楽しくなったから。</li> </ul>
イ：どちらかというのと地理が得意になった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな地名があって面白いと思ったから。</li> <li>・地理の方が覚えやすいから。</li> <li>・教科書をちゃんと読んだから。</li> <li>・地理についての本を読んだから。</li> <li>・世界の地形や気候に詳しくなった。</li> <li>・インターネットや本を使って調べたりして何となく理解できるようになった。</li> <li>・地理の方が好きで、1年の時より、理解できるようになったから。</li> <li>・授業をしっかりと聴くようにして、重点的に学習したから。</li> </ul>
ウ：歴史が得意になった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もともと歴史が好きだったけれど、詳しく勉強して得意になった。</li> <li>・人物や時代を覚える方が、地理より楽しい。</li> <li>・歴史の授業の方が地理より楽しい。</li> <li>・戦国時代の武将など覚えやすかった。</li> <li>・ノートを書いたりするときに興味がわくから。</li> </ul>
エ：どちらかというのと歴史が得意になった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理よりも自分の興味のあるところが多い。</li> <li>・人物などをノートにきれいにまとめられて見やすかったから。</li> <li>・歴史の方が勉強していて楽しいと思うようになった。</li> <li>・歴史の学習ワークをまじめにやっていたから。</li> <li>・歴史の面白さが、だんだん分かってきて勉強を頑張る気持ちが出たから。</li> <li>・1年生の時は、どちらも得意でなかったけれど、最近歴史が少し好きになった。</li> </ul>
オ：両方得意になった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ワークをしっかりとやってよく理解できた。</li> <li>・暗記は苦手だが、社会は好き、楽しい、考えるのは好き。</li> <li>・ノートをわかりやすく整理することによって見返しやすくなった。</li> <li>・1年生の最初の頃よりも勉強したから。</li> <li>・最近ノートまとめが楽しくなってよくやるようになった。</li> <li>・資料の意味を考えながら勉強し、教科書の内容を自分で整理するようにしたから。</li> <li>・授業で先生の話をしっかり聞いて覚えた。</li> </ul>



## 【仮説1】について

単元のはじめやまとめの学習で、様々な資料を計画的に活用しながら、『白地図』や学習ノート等を使った学習を取り入れれば、単元を大観させるとともに、基礎的・基本的な知識や技能の習得を徹底できるだろう。

地理的分野の各単元のはじめやまとめの学習で、『白地図』や学習ノート等を継続的、効果的に活用し、「単元を大観させる学習」を取り入れた。たとえば、「世界のさまざまな地域」の単元のはじめの学習で、『白地図』等を参考にし、世界各地の特色を理解するため各自の学習ノートに、各地域の自然環境を中心とした地図を書かせる等を行う。これによって基礎的・基本的な知識や技能の習得を図るとともに、その後の各授業の要所で『白地図』や学習ノート等を活用した学習を取り入れ、基礎的・基本的な知識や技能の習得を、一層深めることができるようにした。そして、単元のための学習では、教科書にある「ふり返りの学習」や『白地図』や学習ノート等を「振り返る」ことを、「単元を大観させる学習」として行い、基礎的・基本的な知識や技能の習得を徹底できるようにした。また、その際『白地図』や学習ノート等を活用して自分なりに学習課題に対する考えをまとめる学習を、「まとめあげる」学習として取り上げた結果、少数ながら地理的事象を多面的・多角的に関連付けて考察できる生徒も見られるようになった。

このように単元学習のはじめやまとめに、『白地図』や学習ノート等を活用した結果、『白地図』内の「作業」や「問題」だけではない独自の工夫をしたり、学習ノートに資料を添付したり、特色を記入したりする等、知識や技能の習得に役立たせる学習を行う生徒が多く見られるようになった。また、アンケートB2「1年生の最初の頃と比べて、社会科の授業では地理と歴史とではどちらが得意になったか？」を見ると、「地理が得意になった」(12人)と「どちらかというとも地理が得意になった」(16人)、「両方とも同じくらい得意になった」(14人)という結果で、1年生の最初の頃と比べて、地理の学習を得意になってきた生徒が多くなっている。(ただし、アンケートAを見ると歴史よりも得意になったわけではないことがわかる。)これは、生徒自身の自己評価の中で、基礎的・基本的な知識や技能が、1年生の最初の頃と比べて身につく、自分なりに進歩していると感じている生徒が多いことを示していると考えられる。

## 【仮説2】について

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて『白地図』等を、ツールとして活用すれば様々な学習場面において生徒の思考力・判断力・表現力等を伸長し、「生きる力」を培うことができるだろう。

地理的分野の各単元のはじめの学習で、『白地図』や学習ノート等を活用し、学習の「見直し」となる学習課題を明確にさせた結果、各単元の課題を解決していく手立てを考え、その予想を『白地図』や学習ノート等に自然に書ける生徒が、少数ながら見られようになった。ただ、全体的には、まだ「書かされている」段階であり、これからさらに、生徒の思考力・判断力・表現力等を伸長させるため、学習方法を継続・改善していく必要がある。

さらに、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けての取り組みでは、次第に、様々な資料を適切に活用しながら、情報収集に関する技能を高める手立てとして、『白地図』や学習ノート等を適切に活用している生徒も出始めている。これまで『白地図』や学習ノート等に対して、優れた生徒の作品を、評価と同時に本人の了解を得て紹介している。「素晴らしいものは良い手本となる」と考えるが、他の生徒達も参考にしながら自分なりに工夫をしている。この学習を継続しているうちに、まだまだながら、自分で学習課題に対する「予想」を考え、『白地図』や学習ノート等に具体的に書いたり(思考力)、問題を解決する方法をまわりと話し合いながら見い出したり、(判断力)、相手に分かるように様々な方法で表現したり(表現力)、ということに、取り組むことができる生徒が少しずつ増えている。

また、アンケートB4「1年生の最初の頃と比べて、何かを調べたり、調べたことを自分でまとめたり、自分の言葉で感想を書いたり、友達に説明することが得意になりましたか？」の結果を見ると、「得意になった」(22人)と「まあまあ得意になった」(32人)と、生徒の自己評価でも高い割合を示し、生徒自身も自分の成長を実感していることがうかがえる。この『白地図』や学習ノート等を活用した学習を、今後も取り組むことで、「生きる力」を培い、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた学習支援ができると考える。

## 6. 成果と課題

### [成果]

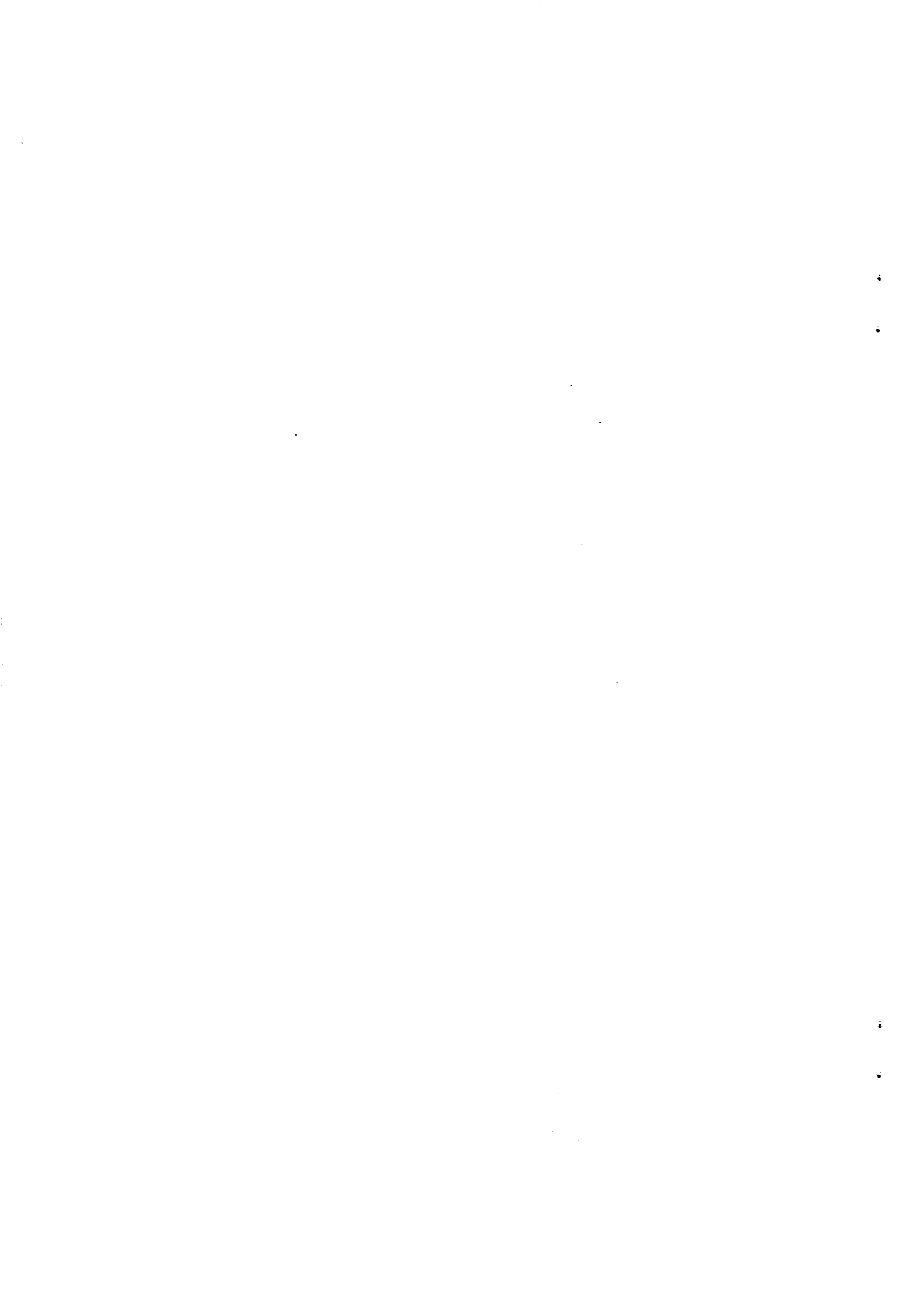
- ・『白地図』等を継続的、効果的に活用し、各自の学習ノートに、各地域の自然環境、人口、文化、産業等の特色をつかむための地図を書く習慣ができ、単元を大観すの「ふり返りの学習」で、『白地図』や学習ノート等を有効に活用し、基礎的・基本的な知識や技能の習得を徹底できる生徒が増えた。
- ・『白地図』や学習ノート等を活用し、学習の「見通し」となる学習課題を明確にしたため、生徒自身が、学習課題を解決していく手立てを考えられようになった。
- ・各単元や各授業のまとめの学習で、『白地図』や学習ノート等の様々な資料を適切に活用し、自分で学習課題に対する「予想」を考え、具体的に『白地図』や学習ノート等書いたり(思考力)、問題を解決する方法をまわりと話し合いながら見い出したり(判断力)、相手に分かるように表現する(表現力)ことができる生徒も見られるようになった。
- ・『白地図』や学習ノート等で、優れた生徒の作品を、評価と同時に本人の了解を得て紹介した結果、生徒の意欲が高まり『白地図』や学習ノート等を、工夫して活用する生徒が次第に増えている。
- ・地理的分野の学習に『白地図』や学習ノート等を、工夫して活用した結果、1年生の最初の頃と比べて、地理的分野の学習を得意になったと感じている生徒が増えてきた。

## 【課題】

- ・『白地図』や学習ノート等を適切に活用させるには、生徒個々の能力、学習の進度や発達段階等を踏まえて段階的に取り組む必要があり、生徒の白地図や学習ノート等に対するコメントや評価等の個別支援が不足がちになっている現状がある。また、社会科を得意としている生徒と苦手としている生徒の学習に対する意欲の差は、少なからず減少はしたが、まだ解消されてはいない。そのため、今後の学習では、社会科を苦手としている生徒の意欲を高める個別支援等を、どのように取り組み、改善していくのが、今後の大きな課題と考える。
- ・単元のまとめの学習として、教科書にある「ふり返りの学習」を、「単元を大観させる学習」として行い、その際『白地図』や学習ノート等を活用させ、「まとめあげる」学習としても取り入れているのだが、多くの生徒が、地理的事象を多面的・多角的に関連付けて考察できるというレベルには至っていないと考える。「深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせる」ためにさらに研究を進めたい。
- ・「見いだす」「調べる」「深める」「まとめあげる」の4過程は、各単元において計画し、それぞれの学習活動として取り入れているのだが、「深める」や「まとめあげる」活動が、まだまだ不足していると考え。今後の学習の中で「まわりとの対話等」の「深める」活動を一層増やし、生徒の思考力を高め、「学習活動の質を向上させる」ことを目指したい。さらに「まとめる」にとどまっている現状を表現力を向上させた「まとめあげる」活動にまで高め、「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指していきたい。

# 資料編

佐倉市立佐倉東中学校  
綿貫 孝一・大川 彰夫



# 指導案例 (白地図や学習ノート等の活用例)

## 1. 単元名 世界の諸地域 (アフリカ州 アフリカ州の課題と展望)

### 2. 単元の目標

- ・アフリカ州の自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景等の特色について概観する中で、アフリカ州が生産物の輸送や開発のための技術を海外にたよっていること等に関心を持ち、設定された学習課題を意欲的に追求しようとしている。 (社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・アフリカ州の国々が、特定の生産品にたよる生活や他国への依存からの脱却を進めてきた過程について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 (社会的な思考・判断・表現)
- ・アフリカ州の農業や鉱業の特色や問題点などについて、様々な資料を収集し、アフリカ州の地域的特色について適切に読み取り、資料としてまとめようとしている。 (資料活用の技能)
- ・アフリカ州について、広大なさばくを持つ自然環境、古い歴史と伝統的な文化、農業や鉱業を中心とした産業などの特色を単元のまとめとして大観し、それぞれの基礎的・基本的な知識を理解することができる。 (社会的事象についての知識・理解)

### 3. 指導計画 (4時間扱い)

学習過程	時配	目 標	学 習 活 動	評 価 基 準
見出す	1	アフリカ州の自然、歴史と文化の特色に関心を持って、雨温図、分布図、写真等の資料を概観し、白地図や学習ノート等を活用することによって基礎的・基本的な知識を身に付けることができる。	・アフリカ州の各地域の自然、歴史と文化の特色を、雨温図、分布図、写真等の資料から概観し、アフリカ州の特色に関心を持って読み取り、白地図や学習ノート等に工夫してまとめる。	・アフリカ州を概観する中で、多様な自然及び伝統的文化や産業などに関心を持ち、その多様性を意欲的に追求し、理解するために白地図や学習ノート等を工夫して活用しようとしている。(知識・理解) (関心・意欲・態度)
調べる	1	アフリカ州の産業の特色を資料を調べることによって、農業や鉱業がアフリカの産業の中心であるという現状を、読み取り、資料としてまとめることができる。	・アフリカ州の農業や鉱業等、各産業の統計資料等を調べ、その特色や問題点を適切に読み取り、白地図や学習ノート等にまとめ、今後の学習資料として活用する。	・アフリカ州のプランテーション農業やモノカルチャー経済の実態について、貿易統計等の資料から読み取り、白地図や学習ノート等にまとめようとしている。(資料活用の技能)
深める	1	アフリカ州の農業や鉱業の特色をカカオや希少金	・アフリカ州の農業や鉱業の特色をカカオや希少金	・カカオや希少金属(レアメタル)の生産など、自分

		属 (レアメタル) の生産など、日本人の生活と関わりが深い産業を調べ、白地図や学習ノート等にまとめることによって理解を深めることができる。	(レアメタル) の生産など、日本人の生活と関わりが深い産業を調べ、白地図や学習ノート等にまとめることによってアフリカ州の産業について理解を深める。	で調べた白地図や学習ノート等の資料をもとに、日本人の生活と関わりが深いアフリカ州の産業に対する理解を深めようとしている。 (思考・判断・表現)
まとめあげる	1 本時	アフリカ州の自然や文化等の特色を、白地図や学習ノート等で大観することによって、基礎的・基本的な知識を身に付けることができる。 アフリカ州の自立に向けての課題について、都市化、人口増加、環境問題の三つの視点を踏まえて考察することができる。	・アフリカ州の白地図や学習ノート等を振り返り、基礎的・基本的な知識を身に付ける。 ・「農業や鉱業が産業の中心であるアフリカ州は、どのように変化しているのか。」という学習テーマの答えを、自立へ向けての様々な努力を踏まえて考察し、白地図や学習ノート等にまとめる。	・白地図や学習ノート等を振り返ることによって、アフリカ州に関する基礎的・基本的な知識を身に付けようとしている。 ・現在のアフリカ州が持つ課題について、三つの視点を踏まえて、自立に向けて必要なことを、多面的・多角的に考察し、適切に白地図や学習ノート等で表現しようとしている。 (知識・理解) (思考・判断・表現)

#### 4. 本時の指導 (4 / 4)

##### (1) 目標

- ・現在のアフリカ州の課題について、自然や文化、都市化、人口増加、環境問題等の基礎的・基本的な知識を、白地図や学習ノート等を活用して身につけている。

(社会的事象についての知識・理解)

- ・アフリカ州の変化と自立へ向けての課題について、都市化、人口増加、環境問題の三つの視点を踏まえて、各資料を多面的・多角的に考察し、白地図や学習ノート等に適切に表現している。

(社会的な思考・判断・表現)

##### (2) 展開

時配	学習活動と学習内容	指導・支援 ○評価	資料
5分	・これまでの授業を振り返り、アフリカ州について白地図、地図帳や教科書を使って大観する。	・アフリカ州の自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景等について大観させる。 ・白地図や学習ノート等を適切に活用させ、網羅的にならないように留意する。	地図帳 白地図 学習ノート 教科書
35分	各班の発表を聞いて、「農業や鉱業が産業の中心であるアフリカ州は、どのように変化しているのか。」を理解しよう		

・各自で調べた白地図や学習ノート等の資料を適切に活用する。

・カカオや希少金属（レアメタル）等の一次産品の輸出にたよっていることで起こる経済格差等の課題について、都市化や人口増加という視点を踏まえて、ホワイトボードにまとめ、発表する。

・質疑・応答

・これまでの授業でまとめてきた白地図や学習ノート等の資料を中心に、自分たちの課題についての考えをまとめさせる。

・モノカルチャー経済の課題について発表するために必要な資料を適切に提示する。  
・他班の発表を静かに聞き、内容を適切にメモできるように促す。

○適切な資料を見つけ、意欲的に発表することができる。（思考・判断・表現）

○質問に対して適切に答えることができる。（思考・判断・表現）

※以下 質問と質疑・応答に関する同様の指導・支援と評価は省略

・乳児死亡率や医者・医療品の不足等の医療関係の課題について、環境衛生という視点を踏まえて、ホワイトボードにまとめ、発表する。

・森林伐採や野生生物の減少等の発展に向けての課題について、環境問題という視点を踏まえて、ホワイトボードにまとめ、発表する。

・日本のNGOの協力等、日本との関わりを含めて、アフリカ州のこれからについて、ホワイトボードにまとめ、発表する。

・AU(アフリカ連合)の結成、ケニアのワンガリ環境副大臣(当時)のノーベル賞受賞、南アフリカ共和国の変化等、自立に向けた努力について、ホワイトボードにまとめ、発表する。

・各班の発表を聞いて、現在のアフリカ州の課題について、都市化、人口増加、環境問題等の視点を踏まえて白地図や学習ノート等を活用して大観する。

・発表された内容を自分の考えを加えながら白地図や学習ノート等にまとめる。

・エイズ感染率を含めた医療関係の課題について発表するために必要な資料を適切に提示する。

・森林伐採や野生生物の減少等の自然破壊と経済的発展との諸課題について、考察し、発表するために必要な資料を適切に提示する。

・日本の伝統的な井戸掘りの工法「上総堀り」についての資料を含め、アフリカ州のこれからについて発表するために必要な資料を適切に提示する。

・AU(アフリカ連合)の結成、ケニアのワンガリ環境副大臣(当時)のノーベル賞受賞、南アフリカ共和国の変化等、自立に向けた努力について発表するために必要な資料を適切に提示する。

・自分の考えを適切にまとめ、表現するために白地図や学習ノート等を工夫して活用するように促す。

○各班の発表からアフリカ州の変化と自立へ向けての課題を、日本との関わりを含めて大観し、基礎的・基本的な知識を身に付けることができる。（知識・理解）

○自分の考えを白地図や学習ノート等にまとめることができる。（思考・判断・表現）

インターネット資料  
電子黒板  
地図帳  
白地図  
学習ノート  
教科書  
以下同上

10分





アフリカ州の白地図の例

アフリカ州の白地図例

1. 地図を参考に、A-Dに国名、1-7に当てはまる白地図を記入しよう。

2. 次の1-7の気候図は地図中のA-Eのどの国名のものか、あてはまる記号を( )に書きましょう。

ア. リーブルビル (イ. カイロ ウ. ケープタウン エ. ラバト)

3. (1) 地図を参考に、輸出品として、輸出品としての割合以上の国を黄色でぬりましょう。  
 (2) このような国々の同位線をひきましょう。

4. 次の4つの国の輸出品について(1)-(4)にあてはまる記号・記号をひきましょう。

エジプト	輸出品	① (イ) (エ)
コートジボワール	輸出品	② (イ) (エ)
ナイジェリア	輸出品	③ (イ) (エ)
南アフリカ	輸出品	④ (イ) (エ)

アフリカ州の白地図、活用方法に工夫は、あまり見られないが、学習ノートに活用が見られる。

アフリカ州の学習ノート(白地図を参考に生徒が独自にまとめたもの)

地図の書き方も個人差があるが、地図の単なるコピーではなく、自分で『白地図』等を見て、何らかの工夫をして写すことを奨励した。結果、様々な地図や「資料」がまとめられた。

-アフリカ州-

- ① ナイル川
- ② 特ハラ砂漠
- ③ ギニア湾
- ④ 紅海
- ⑤ ピラミッド
- ⑥ キリマジャロ山
- ⑦ コンゴ盆地
- ⑧ モーリタニア

A エジプト  
 B コートジボワール  
 C ナイジェリア  
 D 南アフリカ共和国

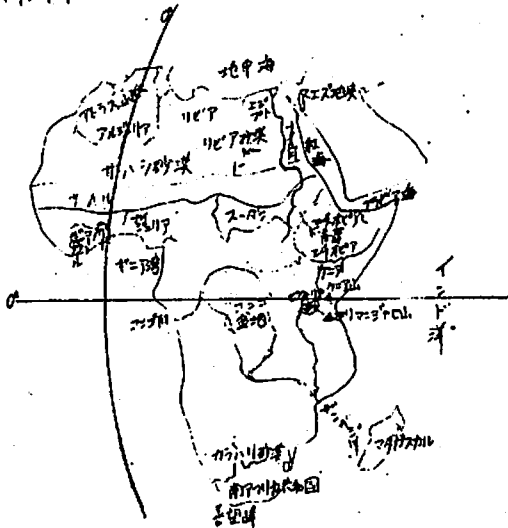
アフリカ州

赤道 0°  
 本初子午線 0°

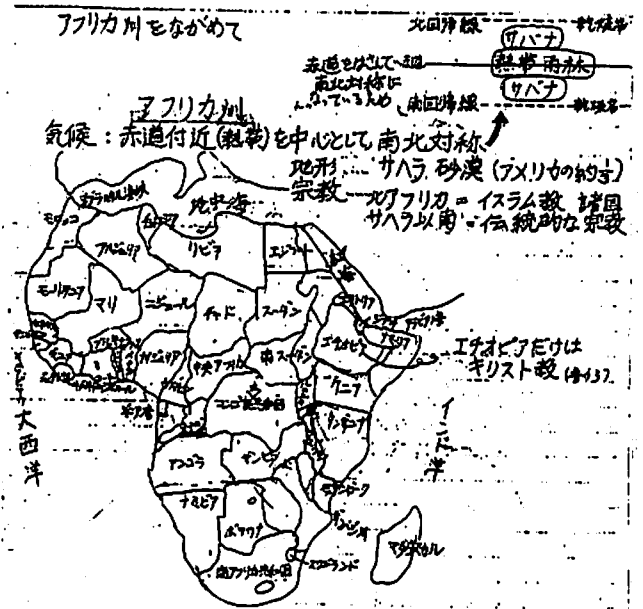
アフリカ州の学習ノート(白地図を参考に生徒が独自にまとめたもの)

自然や文化について簡潔にまとめられている。

アフリカ州



- ・コートジボワール...カカオの栽培。
- ・ギニア湾の油田が深い。
- ・ナイル川...古代文明が栄えた。世界最長。
- ・南アフリカ...2011年の独立。
- ・オリマングロム...アフリカの最高峰。
- ・南アフリカ共和国...アフリカ最大の工業国。

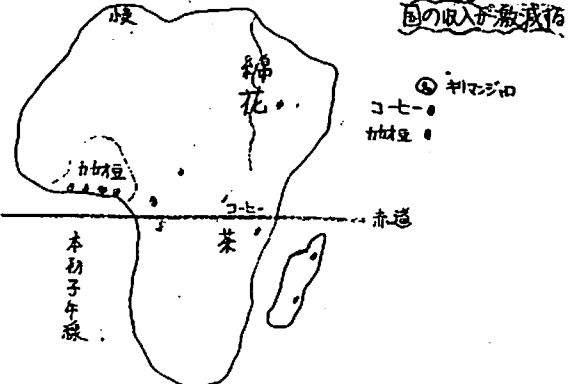


「アフリカの歩み」  
 各民族独自の文化が栄えていた。資本主義  
 ↓  
 19世紀 植民地支配 (ヨーロッパ列強)  
 ↓  
 民族分布(言語)と国境が一致しない  
 ↓  
 内線(地域紛争) = 難民問題が発生  
 ↓  
 農業の発達に課題  
 自立への努力

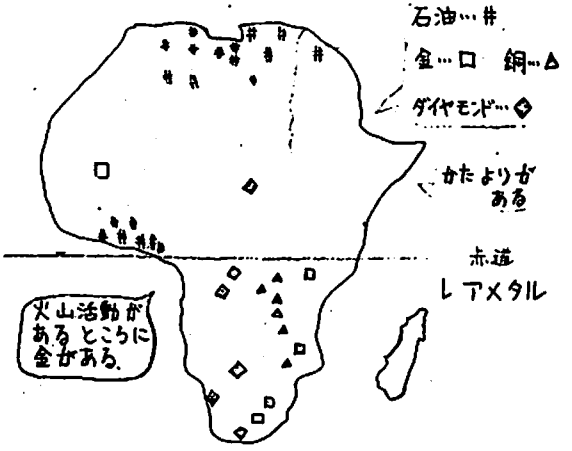
産業や鉱産資源についてまとめられた学習ノートの例。

アフリカの産業と新たな開発

アフリカの農業 (カカオ) 日本から輸入  
 プランテーション (大農園) ← 植民地  
 商品作物...手作業  
 輸出入  
 主食も不足し、単一栽培で不安定 → 不作になり  
 ↓  
 国の収入が激減する



アフリカの鉱産資源



露天掘り ⇒ 欧米や中国、日本などに輸出





※アフリカ州以外の白地図の例2

世界の人口問題と日本の人口問題の「深める」、「まとめあげる」授業において白地図を使用した例。「主体的・対話的で深い学びの実現」につながる様々な意見が出ている。

18 世界の人口問題

作業  
1. 3つの人口ピラミッドを比べよう。  
エチオピア (2006年)    アメリカ合衆国 (2012年)    日本 (2014年)

①(富士山)国    ②(つりがね)国    ③(つば)国

(1)3つの人口ピラミッドの( )国にあてはまることを図から読み取ります。  
(2)アフリカやラテンアメリカなどの発展途上の国+にあられるのはどの国ですか。図解から読み取ります。

2. 発展途上国と先進国の人口問題にはどのようなものがありますか。  
(1)発展途上国の問題点にはどのようなものがありますか。

人口爆発と呼ばれる急激な人口増加に対し、食料生産が追いつかない、感染症や学校が不足、スラムと呼ばれる地区ができるなどの問題点がある。  
他にも、干ばつや戦争などにより多くの難民が生み出されていることが問題点。

(2)少子高齢化の進んでいる先進国の問題点にはどのようなものがありますか。

少子高齢化が進んでいることにより、人口減少が進んでいる国がある。その減少を防ぎようと、子育ての支援や、外国からの移民を受け入れる政策が行われていて、政策により、子どもの数が減まることや労働力が減少するようになることが問題点。

19 日本の人口問題

作業  
1. 地図割を参考に1位～5位までの都道府県名を記入し、地図の上に着色しましょう。

(1)人口    (2)人口密度

多い(赤色)	少ない(黄色)
1位 東京 兵庫	1位 東京 宮子
2位 神奈川 鳥取	2位 大阪 秋田
3位 大阪 高知	3位 神奈川 高知
4位 香取 徳島	4位 埼玉 鳥取
5位 埼玉 福井	5位 長門 宮崎

1. 人口と人口密度の図を見て、その特色をまとめよう。  
①人口が集中しているところはどこでどこでしよう(どうして、集中するのでしょうか)。  
新幹線や高速道路、航空機などの高速交通網が充実していることや、生活が便利だから、大都市に集中している。

②人口過密地域、過疎地域にはそれぞれどんな問題があるか考えよう。  
過密地域 物価も高くなった。車の人口増加、郊外への人口流出、公共交通機関が充実しない交通渋滞、住宅不足、大気汚染、ごみ問題などがある。  
過疎地域 人口の減少と高齢化、限界集落、若年層の流出が続き、公共施設が維持できなくなるなどの問題がある。

18 世界の人口問題

作業  
1. 3つの人口ピラミッドを比べよう。  
エチオピア (2006年)    アメリカ合衆国 (2012年)    日本 (2014年)

①(富士山)国    ②(つりがね)国    ③(つば)国

(1)3つの人口ピラミッドの( )国にあてはまることを図解から読み取ります。  
(2)アフリカやラテンアメリカなどの発展途上の国+にあられるのはどの国ですか。図解から読み取ります。

2. 発展途上国と先進国の人口問題にはどのようなものがありますか。  
(1)発展途上国の問題点にはどのようなものがありますか。

人口爆発と呼ばれる急激な人口増加に対し、食料生産が追いつかない地域や、感染症や学校が不足している地域が多くある。水不足や貧困、衛生状態の悪化などにより、衛生に多くの人が悩まされ、スラムと呼ばれる地区もある。干ばつや戦争などにより、多くの難民が生み出されている地域もある。

(2)少子高齢化の進んでいる先進国の問題点にはどのようなものがありますか。

少子高齢化が進んでいることにより、人口減少が進んでいる国がある。子育ての支援や、外国からの移民を受け入れる政策が行われていて、政策により、子どもの数が減まることや労働力が減少するようになることが問題点。

19 日本の人口問題

作業  
1. 地図割を参考に1位～5位までの都道府県名を記入し、地図の上に着色しましょう。

(1)人口    (2)人口密度

多い(赤色)	少ない(黄色)
1位 東京 鳥取	1位 東京 北海道
2位 神奈川 鳥取	2位 大阪 福井
3位 大阪 高知	3位 神奈川 秋田
4位 香取 徳島	4位 埼玉 高知
5位 埼玉 福井	5位 長門 高知

1. 人口と人口密度の図を見て、その特色をまとめよう。  
①人口が集中しているところはどこでどこでしよう(どうして、集中するのでしょうか)。  
大都市に集中している理由、大都市のほうが生活が便利で、仕事が見つけやすいから。

②人口過密地域、過疎地域にはそれぞれどんな問題があるか考えよう。  
過密地域 物価も高くなったため、郊外の人口が減少し、郊外の人口減少による人口減少の人口増加した時期もあった。(ドーナツ化現象)公共交通機関が充実しないから、交通渋滞、住宅不足、大気汚染、ごみ問題などがある。  
過疎地域 大都市に人口が集中する一方、農村や山間部は人口が減少して、高齢化が進んでいる。若年層の流出が続き、公共施設が維持できなくなるなどの問題がある。

※アフリカ州以外の白地図の例 3

世界の資源問題について、「深める」、「まとめあげる」授業での白地図の活用例。「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて、生徒達は、自分なりに資料を分析。

20 資源問題

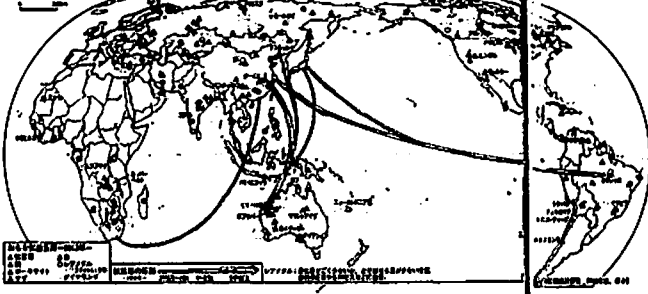
作業 1. 地図帳のP147を見て、原油の輸入を赤色、石炭の輸入を青色、で着色しましょう。

世界のエネルギー資源の分布と移動



作業 2. 日本への原油・石炭の移動を緑色で着色しましょう。

原油資源の分布と移動



課題 1. 日本の原油、石炭の輸入先の特徴をまとめましょう。

(原油) オーストラリア、イメンカスの  
 輸入が多く、約2億トン以上も。  
 おほか、途中、韓国と分かちるので、  
 1億〜2億トンが日に輸入されて  
 います。日本からの輸出はないと思  
 います。

(石炭) すべて、オーストラリアから輸入  
 されています。オーストラリアが約1億トン以上  
 (輸入されていて、新、韓国に300万〜400万  
 トン、中国に700万〜1億トンオーストラリア  
 から輸出されている。日本からの輸出はない！

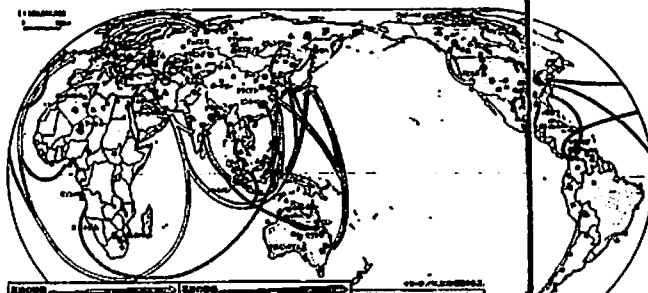
課題 2. 日本の原油・石炭の輸入先の特徴をまとめましょう。

日本は、アラビアから3000万〜1億トン  
 程度原油を輸入しており、新、オース  
 トラリアから、3000万〜1億トン輸入している。  
 アラビアは、日本の他に中国に1〜5億トン、  
 オーストラリアは、中国に1億トン以上、韓国に  
 3000〜1億トン輸出している

20 資源問題

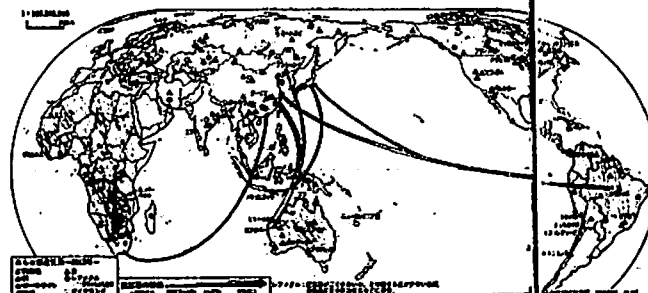
作業 1. 地図帳のP147を見て、原油の輸入を赤色、石炭の輸入を青色、で着色しましょう。

世界のエネルギー資源の分布と移動



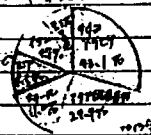
作業 2. 日本への原油・石炭の移動を緑色で着色しましょう。

原油資源の分布と移動

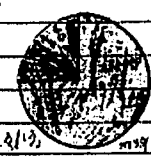


課題 1. 日本の原油、石炭の輸入先の特徴をまとめましょう。

(原油) オーストラリア、アラビア産原油  
 量が多い。オーストラリア産原油は成  
 分の違う。  
 オーストラリア産原油は  
 全体の約10%もある。  
 全体の約70%はアラビア  
 産原油。

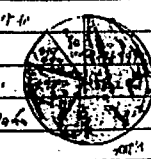


(石炭) オーストラリア産石炭がほと  
 んど。オーストラリア産石炭は  
 1億トン以上を毎日  
 輸入している。  
 オーストラリア産石炭は、  
 日本が輸入している石炭の約  
 90%を占めている。



課題 2. 日本の原油・石炭の輸入先の特徴をまとめましょう。

オーストラリア産原油は約1億トン、  
 アラビア産原油は約1億トン、  
 オーストラリア産石炭は約1億トン、  
 アラビア産石炭は約1億トン、  
 石炭と原油では1億トンの  
 約10%程度。



# ※アフリカ州以外の学習ノートの実用例1

学習ノートも個人差はあるが、自分なりに白地図等を参考に、何らかの工夫が見られるようになり、「主体的・対話的で深い学びの実現」に役立つ学習ノートが、まとめられつつある。

モンーン(季節性)の気候  
雨が多い(夏)  
梅雨(台風) 風水害

北海道の気候⇒冷帯(寒帯)  
南西諸島 小笠原諸島の気候  
⇒亜熱帯の気候

地図記号  
地形、国の約束  
縮尺 255千分の1  
5万分の1  
地図記号  
土地利用  
建物・施設  
線

自然災害と防災  
さまざまな自然災害  
地震 津波  
土砂災害 気候化現象

火山⇒溶岩 火山灰  
火砕流

温帯になりつつある

距離	5m	25m
計測	100m	50m
主計測	20m	10m
副計測	10m	5m

● 中心点 ▲ 三角点

気象中心(気象現象が原因)  
台風→土石流 高潮  
夏の気候→冷害  
少雨→干害 大雪→雪害  
交通の混乱

埼玉県の県庁所在地  
大宮と浦和でどちらにするのかでケンカになり、結果的に大宮になった。

<日本 県庁所在地>

県庁が置かれた都市

① 新潟県(新潟) ② 富山県(富山) ③ 石川県(金沢) ④ 福井県(福井) ⑤ 山梨県(山梨) ⑥ 長野県(長野) ⑦ 群馬県(群馬) ⑧ 埼玉県(埼玉) ⑨ 千葉県(千葉) ⑩ 東京都(東京) ⑪ 神奈川県(横浜) ⑫ 静岡県(静岡) ⑬ 愛知県(名古屋) ⑭ 岐阜県(岐阜) ⑮ 東京都(東京) ⑯ 東京都(東京) ⑰ 東京都(東京) ⑱ 東京都(東京) ⑲ 東京都(東京) ⑳ 東京都(東京) ㉑ 東京都(東京) ㉒ 東京都(東京) ㉓ 東京都(東京) ㉔ 東京都(東京) ㉕ 東京都(東京) ㉖ 東京都(東京) ㉗ 東京都(東京) ㉘ 東京都(東京) ㉙ 東京都(東京) ㉚ 東京都(東京) ㉛ 東京都(東京) ㉜ 東京都(東京) ㉝ 東京都(東京) ㉞ 東京都(東京) ㉟ 東京都(東京) ㊱ 東京都(東京) ㊲ 東京都(東京) ㊳ 東京都(東京) ㊴ 東京都(東京) ㊵ 東京都(東京) ㊶ 東京都(東京) ㊷ 東京都(東京) ㊸ 東京都(東京) ㊹ 東京都(東京) ㊺ 東京都(東京) ㊻ 東京都(東京) ㊼ 東京都(東京) ㊽ 東京都(東京) ㊾ 東京都(東京) ㊿ 東京都(東京)

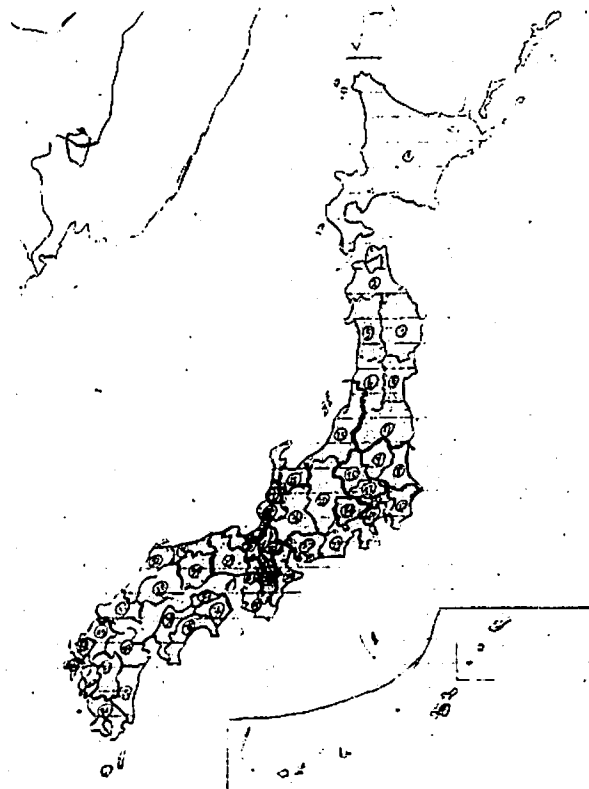
都道府県  
都道府県と県庁所在地  
都道府県...地方の政治を行うための単位  
↳ 1都道2府1県

県庁所在地...県庁が置かれている都市  
・都道府県庁  
・都道府県議会 } 政治に中心となる機関  
・裁判所

埼玉県の県庁所在地  
大宮と浦和でどちらにするのかケンカになり、結果的に大宮になった。

県庁所在地  
・歴史のある都市  
・(家下町、19世紀)  
・交通の要所

① 北海道(札幌)	② 青森県(青森)	③ 岩手県(盛岡)	④ 秋田県(秋田)	⑤ 山形県(山形)	⑥ 福島県(福島)
⑦ 茨城県(水戸)	⑧ 栃木県(宇都宮)	⑨ 群馬県(高崎)	⑩ 埼玉県(埼玉)	⑪ 千葉県(千葉)	⑫ 東京都(東京)
⑬ 東京都(東京)	⑭ 東京都(東京)	⑮ 東京都(東京)	⑯ 東京都(東京)	⑰ 東京都(東京)	⑱ 東京都(東京)
⑲ 東京都(東京)	⑳ 東京都(東京)	㉑ 東京都(東京)	㉒ 東京都(東京)	㉓ 東京都(東京)	㉔ 東京都(東京)
㉔ 東京都(東京)	㉕ 東京都(東京)	㉖ 東京都(東京)	㉗ 東京都(東京)	㉘ 東京都(東京)	㉙ 東京都(東京)
㉙ 東京都(東京)	㉚ 東京都(東京)	㉛ 東京都(東京)	㉜ 東京都(東京)	㉝ 東京都(東京)	㉞ 東京都(東京)
㉞ 東京都(東京)	㉟ 東京都(東京)	㊱ 東京都(東京)	㊲ 東京都(東京)	㊳ 東京都(東京)	㊴ 東京都(東京)
㊴ 東京都(東京)	㊵ 東京都(東京)	㊶ 東京都(東京)	㊷ 東京都(東京)	㊸ 東京都(東京)	㊹ 東京都(東京)
㊹ 東京都(東京)	㊺ 東京都(東京)	㊻ 東京都(東京)	㊼ 東京都(東京)	㊽ 東京都(東京)	㊾ 東京都(東京)
㊾ 東京都(東京)	㊿ 東京都(東京)				





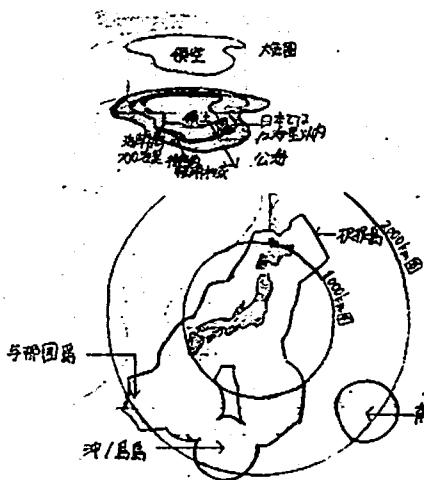
# ※アフリカ州以外の学習ノートの活用例2

学習ノートも自分なりに白地図等を参考に、よりわかりやすい工夫が見られるようになって来た。「主体的・対話的で深い学びの実現」に学習ノートが、日々活用されている。

日本の領域の特色を見てみよう  
日本の広さ  
日本列島…北海道、本州、四国、九州+島々  
4国境線は全て海上

日本 (380000) km<sup>2</sup>  
北海道 (77,994) km<sup>2</sup>  
本州 (227,943) km<sup>2</sup>  
四国 (18,298) km<sup>2</sup>  
九州 (36,782) km<sup>2</sup>

### 日本の領域



1海里 = 1852m  
11ノット  
4ノットは1海里速さ

### 領土領有権争い

10海里(約20ノット)  
その他の領有権  
・水産領有権 (魚)  
・気象領有権 (石油、天然ガス)  
↳ 200海里 (約370ノット)

北方領土  
(北緯 45°33')  
東端南鳥島  
(東経 153°59')  
南端沖ノ島  
(北緯 20°25')  
西端与那国島  
(東経 122°58')

### 領土をめぐる問題

北方領土… 歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島  
・日本固有の領土  
・第二次世界大戦後にソ連が占領  
↳ ロシアが不法占拠



竹島… 韓国が不法に占拠している

・日本が一方向的に抗議  
・国際機関を利用し呼びかけ

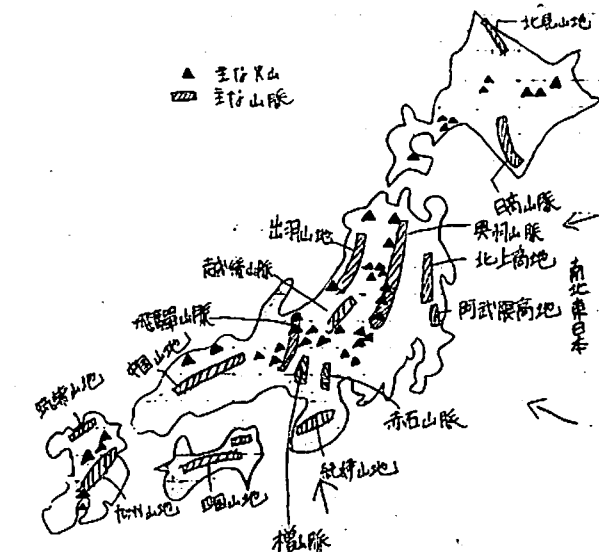
尖閣諸島… 日本が実効的な支配

・中国が領有権を主張している  
・国際社会… 日本の領土

1953	奄美群島がアメリカに返還
1956	日本列島返還
1968	小笠原群島がアメリカに返還
1972	沖縄がアメリカから返還
	7月1日返還

色丹島、歯舞島

↳ 日ソ共同宣言で平和条約締結後日本に返還する事が決まっていたが、実現していない。



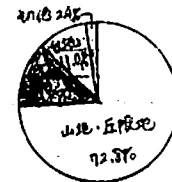
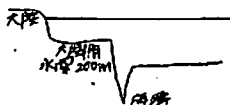
南極大陸 → 南アフリカ大陸とくっついてた

### 日本の山地と海岸

岩石海岸  
砂浜海岸  
砂丘  
11ヶ所海岸 山地が来て埋め立てられた  
全長 3万4400km

### 日本を取り囲む海

海溝 水深 8000m以上



### 川 流域面積

三木川 → 利根川、荒瀬川、信濃川

1番長い川 → 信濃川 367km

111km 利根川 約125km

流域面積が日本一の川 → 利根川 約245km<sup>2</sup>

島根地 (山梨県 甲府盆地)

三重県 雲出川(50)

天然の港湾

相模川

117km

海山

17118km<sup>2</sup> (信濃川)

アフリカ大陸

アフリカ大陸

アフリカ大陸

アフリカ大陸

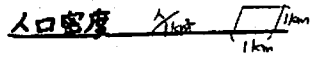
アフリカ大陸

# ※アフリカ州以外の学習ノートの活用例3

白地図の活用から、学習ノートにも自分の感想や考えをまとめたものが、見られるようになった。「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて今後も学習支援を継続したいと考える。

9.3.水

- 世界人口について考えよう -
- 世界の人口増加 -
- 1950年 約20億人
- 2015年 約73億人



人口が多い地域 稲作部、中緯度  
 少ない地域 砂漠、低緯度  
 (乾燥地帯、マダガスカル)

- 世界の人口問題 -
- 人口増加... 発展途上国 (アジア、アフリカなど)
- 人口減少 = 急激な人口増加

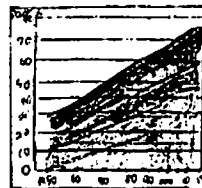
問題 食料生産増進、つれづれ  
 高緯度・低緯度から増える  
 高緯度から増える

人口減少 先進国 (ヨーロッパ、日本など)  
 少子高齢化 出生率の低下  
 死亡率の低下

対策 子育て支援  
 海外への労働力の確保

人口密度  
 オーストラリア 3人/km<sup>2</sup>  
 アフリカ 32人/km<sup>2</sup>  
 中国 144人/km<sup>2</sup>  
 日本 335人/km<sup>2</sup>

774 (増)  
 犯罪 (増)  
 干ばつ、戦争  
 難民 (増)



↑ 地域別人口の増減

人口密度が高い  
 アジア  
 アフリカ (増)  
 ヨーロッパ (減)  
 人口密度が低い  
 発展途上国  
 人口増加

発展途上国  
 人口増加  
 小国・島国  
 人口増加

- 感想 -  
 日本は人口密度が世界に比べて高い。  
 世界 (アジア、アフリカ) は発展途上国で人口増加が激しいので食料生産を増進しなければならない。アフリカは増えることと人口増加の問題があることばかりです。  
 また、1950年から2015年の65年の間に人口は約48億人増えたといわれています。  
 このことから人口増加が続いていくと問題が深刻化すると感じました。  
 日本は少子高齢化が進んでいるため、若年層への仕事の労働力が減少していることが分りました。日本の人口増加が止まっている所を考えると、過疎化してしまっているところの問題があるか若者を集めて問題を解決しようとしていることが分りました。

日本の人口と過疎・高齢問題  
 日本の人口について考えよう  
 1億 ~ 過疎化  
 高齢化 + 少子化  
 ↓  
 少子高齢化  
 過疎化  
 高齢化 + 少子化 = 人口減少  
 限界集落  
 伝統文化 → 継承者問題

世界の資源エネルギーと産業  
 鉱産資源の分布 → 産出地に出た方が  
 原料 { 鉄鉱石... オーストラリア、インドネシア、中国  
 木... オーストラリア、ブラジル  
 ウラン... オーストラリア、ロシア連邦  
 石油... サウジアラビア、ロシア連邦  
 石炭... 中国、アメリカ  
 エネルギー { 化石燃料  
 地球温暖化 温室効果ガス CO<sub>2</sub> など

対策... 再生可能エネルギー  
 バイオ燃料の利用

過疎 = 人口の低下によって社会のサービスなどができなくなった事。  
 問題点  
 ① 産業が成り立たなくなる。  
 例) フォンゴ  
 ② 生活が不便になる。  
 ・交通の便がなくなる。  
 ・鉄道がなくなる。  
 ・近くに物を売ることがなくなる。  
 ③ 生活がなくなる。  
 ・子供がいなくなるからかなくなる。  
 ・おこがなくなるからかなくなる。  
 ④ 石炭、石油、CO<sub>2</sub> の削減  
 家庭の中にもある  
 石油、石炭 = 化石燃料  
 資源が有限に多くある。  
 → 太陽光や風力やバイオエタノール

世界の人口について考えよう  
 増え続ける世界の人口  
 人口増加が 発展途上国 (アジア、アフリカ)  
 問題点: 食料生産が追いつかない  
 病院や学校が足りない  
 環境破壊  
 人口減少が 先進国 (ヨーロッパ、日本など)  
 (例) アフリカ  
 出生率低下 → 出生率の低下  
 対策: 子育て支援  
 海外からの労働力の確保  
 日本の人口について考えたこと  
 現在の日本は、少子高齢化が進んでいる。そのため、結婚する人が少なくなると、高齢者が長生きするようになると、生活が難しくなる。また、農業、漁業、製造業などによっている人が高齢者ばかりになると、労働力が不足する。また、若者が集まらなくなると、問題が深刻化すると感じました。  
 世界人口について考えたこと  
 現在の世界人口は約73億人です。その中で、人口増加が激しいのは、アジアとアフリカです。アフリカは人口増加が激しいので、食料生産を増進しなければならない。また、アフリカは人口増加が激しいので、環境破壊や貧困などの問題がある。また、アフリカは人口増加が激しいので、環境破壊や貧困などの問題がある。